

令和4年度指定管理者評価表(令和5年度実施分)

猪名川上流広域ごみ処理施設組合

《評価概要》

施設名	国崎クリーンセンター啓発施設
施設の設置目的	ごみ減量及びリサイクルに関する情報の発信。 並びに自然や環境問題について学習を通じ循環型社会の構築に寄与することを目的とする。
指定管理者	株式会社トータルメディア開発研究所
選定方法及び指定期間	選定方法: 公募 指定期間: 令和4年4月1日から令和11年3月31日まで
評価対象期間	令和4年4月1日から令和5年3月31日まで
指定管理委託料 (令和4年度)	72,836千円

《評価指標》

《個別項目評価》

- A: 協定書、事業計画書等の内容について、すべての業務計画を達成し、優れた管理・運営が行われている。
- B: ほぼ(8割超)業務計画の内容を達成し、計画通りの実績(効果)があり、適切な管理・運営が行われている。
- C: 概ね(6割以上8割以下)業務計画の内容を達成しているが、一部改善・工夫が必要である。
- D: 協定書等の内容に対し、不適切な事項が認められ、改善を要する。

《総括評価》

(管理体制評価)(経営状況評価)(運営事業評価)

- A: 個別項目評価が全てB以上であり、かつAが半数以上である。
- B: 個別項目評価の全てがB以上である。
- C: 個別項目評価にCが1つでも含まれる。
- D: 個別項目評価にDが1つでも含まれる。

《総合評価》

- S: 総括評価の全てがAである。
- A: 総括評価が全てB以上であり、かつAが2つ。
- B: 総括評価が全てB以上である。
- C: 総括評価にCが1つでも含まれる。
- D: 総括評価にDが1つでも含まれる。

《所管課確認》

項目	評価項目	所管課チェック
管理体制に関する項目	1 (施設の点検・保守管理) ・協定で定める管理物件について、適切に管理されている。 ・定期的に安全確認を行い、組合に報告されている。	<input checked="" type="checkbox"/>
	2 (個人情報保護) ・収集した個人情報は適切に管理されている。 ・個人情報を目的外利用していない。	<input checked="" type="checkbox"/>
	3 (文書管理) ・文書・帳簿等が適正に作成・管理されている。	<input checked="" type="checkbox"/>
	4 (備品管理) ・備品台帳が整備されている。	<input checked="" type="checkbox"/>
	5 (指定管理者が行う修繕) ・協定に定める管理物件の修繕について、適切に実施されている。 ・修繕箇所について、随時、組合に報告されている。	<input checked="" type="checkbox"/>

(上記1～5についての所管課における所見)

上記のチェック内容のとおり、各評価項目に対して確認を行いましたところ、いずれの評価項目においても、適正に管理、執行されており良好と確認されましたので、ここに報告いたします。

《評価表》

項目	評価項目	指定管理者自己評価	
		評価年度においての実績や 右評価とした評価事項 等	評価
管理体制等に関する項目	1 (適正な人員配置) ・事業計画に則した人員配置となっている ・指揮命令系統が確立されている。 ・緊急時にも対応できる体制となっている。	<ul style="list-style-type: none"> ・適切な数の職員を適材適所で配置し、ワークショップや各種啓発業務、地域連携の他、里山保全ボランティア育成、ごみ減量化へ向けた啓発活動を行っている。 ・年度当初、所長が空席の期間(2か月間)があったが、トータルメディア本社の社員が支援に入り、手厚い対応をとった。また、新所長が着任後も、引き続き本社から後方支援を続け、加えて非常勤職員の増強を行い、計画以上の成果を目指す体制とした。 ・緊急対応ができるよう、安全管理マニュアル及び対応体制(非常時、緊急時の役割分担)、緊急連絡網を整備し、毎年更新している。 ・常勤全職員が甲種防火管理者講習及び普通救命講習を修了している。 	A
	2 (職員研修の実施) ・事業計画に則した職員研修が実施されている。 ・苦情や緊急時に適切に対応できるよう研修が実施されている。 ・施設運営の質の向上に資する研修が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・延べ10人が各地の同種施設を視察し、延べ59人が各種の講習や講座を受講した。オンラインを含むこうした各種研修により実務能力向上に努めている。 ・普通救命講習を8月と2月に受講し、9月には甲種防火管理者講習を受講。3月には組合の自衛消防訓練に参加した。12月には人権研修を受講したほか、窓口、電話、電子メールなど、利用者から広く意見を受け入れる体制を整え、苦情に対応した場合の事例を共有している。 ・7月に「さいたま市桜環境センター」(さいたま市桜区)を視察、11月に「京都市南部クリーンセンター環境学習施設さすてな京都」(京都市伏見区)を視察した。12月には最新施設である「エコクリーンピアはりま」(兵庫県高砂市)の視察研修を実施し全スタッフが参加した。こうした視察研修を通して施設運営の質の向上に努めた。 	A
	3 (日常業務及び緊急時等の対応) ・貸館業務利用許可や受付案内等が迅速で丁寧に行われている。 ・苦情が頻発していない。 ・苦情や緊急事態が発生した際の対応が適切に行われている。 ・新たな課題を抽出し、適切に対応している。	<ul style="list-style-type: none"> ・貸館業務利用許可などの事務は原則として即日で実行している。利用者への受付案内は、即時対応している。 ・苦情の覚知は数か月に1回程度。頻発していない。 ・6月の「ジャズとホテルのタベ」に参加のお客様と思われる方から「スタッフの言動にえこひいきや差別があった」旨のメールが組合に届き、組合の指示もいただきながら翌日に回答・対応し、ご理解をいただいた。また、11月のフリーマーケット終了後に組合用の駐車場に台車の忘れ物があり、翌日、組合職員の乗用車が駐車時に接触された。直後から催事の際の終了時の点検強化を徹底した。9月の台風14号接近時には、里山林で倒木による防鹿柵の破損があり、発見後ただちに応急措置をした。 ・9月に屋外(多目的広場)でフリーマーケットを開催した際、近年の気温の傾向から熱中症予防の課題に気づき、本部に特設テントによる休憩スペースを設ける対応を行った。来場者からも「助かる」と喜んでいただけた。 ・和布リメイクの講座では、ミシンの使用に慣れておられないお客様がおられ講座の時間が延びがちであることから、針に糸を通したりミシンの操作を手伝ったり等、講師や参加者のサポートができるスタッフを配備して、アップサイクル(捨てられるはずの製品に新たな付加価値を与えて再生すること)講座を楽しんでいただけるように対応した。 	A
	4 (利用者の安全確保) ・安全確保対策を徹底している。 ・職員に指導徹底している。	<ul style="list-style-type: none"> ・安全管理マニュアルを作成し、徹底している。コロナ禍での施設運営に当たっては、消毒作業などを定型業務に組み込み、利用者の安全確保に努めた。 ・安全管理マニュアルの内容は職員全員に徹底している。 	A

所管課評価		評価協議会評価	
指定管理者のヒアリングにおいて、確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等	
<p>・年度当初の所長不在期間も本社社員を充てることで、現場と本社の連携を図り、施設運営に影響しないよう対応された。特に、ホームページリニューアルに向けた作業や6月の環境月間では、本社の社員が入り円滑に事務を進められた。</p> <p>・常勤職員全6名が施設運営に必要な講習を修了され、安全管理に努めている。</p>	B	<p>令和5年6月16日に指定管理者評価協議会を開催し、指定管理者及び組合に対してヒアリングを実施した。ヒアリングの主な内容は次のとおり。</p> <p style="text-align: center;">管理体制等に関する項目</p> <p>【確認事項】</p> <ul style="list-style-type: none"> ●事業実施に際し、職員への過重負担はないと思われる。 ●職員が受講した人権研修は、職員の居住地の自治体が開催したものであった。 <p>●「エコクリーンピアはりま」の視察では展示に映像やCGを取り入れていることや、屋上に畑を設けてワークショップに活用していること、ベビー用品のリユースにシルバー人材センターと連携していることなどを研修し、これらを事業に活かしている。 また、共通する悩みである駐車場の確保について、有意義な意見交換等を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●自己評価欄に記述のあるイベント時の苦情については、組合と相談し、迅速・適切に対応した。 <p>【意見】</p> <ul style="list-style-type: none"> ○イベント開催時に熱中症予防のためのテントを設置する等、状況に応じて的確な対応ができています。 ○指定管理者が同様の施設運営を全国で展開している強みを活かし、積極的に情報収集や先進地視察に取り組んでいる。 ○視察で学んだことを「ゆめほたる」の運営に活かしてほしい。 ○職員が提案し、それを実行に移していることは評価できる。 ○高い危機管理能力を備えている。 	
<p>・受講した研修(うちエコ診断)で、事業に活かしている。</p> <p>・苦情や緊急時にきちんと対応できるよう、e-ラーニング研修を受講している。</p> <p>・施設運営の質の向上を図るため、広報担当ではSNSでの効果的な活用方法、里山担当では里山研修を受講している。</p>	B		
<p>・利用許可や案内等を適切に対応していることを確認した。</p> <p>・苦情があった際は臨機応変に対応し、全職員に情報が共有されている。</p> <p>・9月の屋外(多目的広場)でのフリーマーケットでは、前年度からの改善点として、特設テントで休憩スペースを設ける対応をとり、利用者のことを考え事業実施に取り組まれている。</p> <p>・開催講座の中でも利用者が苦手とする部分のサポート等、きめ細やかに丁寧に対応している。</p>	B		
<p>・安全管理マニュアルが適切に更新されている。</p> <p>・新型コロナウイルスの感染対策を適切に実施した。</p> <p>・屋外、屋内ともに利用者の安全確保に努めながら、講座等をおこなっている。</p>	B		

評価:

B

項目	評価項目	指定管理者自己評価	
		評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
経営状況に関する項目	5 (経理事務の実施状況) ・収支にかかる帳票類が整備されており、適正な経理処理が実施されている。	・月次で適切に処理しており、帳票類の内容を一覧化している。	A
	6 (収支の状況) ・収支計画書と収支決算書に大きな乖離がない。	・新型コロナウイルス感染症の影響が続き、事業収入合計は予算の7割ほどにとどまった。しかしながら、啓発施設の活動を支える事業関連費は十分に確保したうえで、物件費、管理費などの抑制に努め、収入と支出のバランスを確保した。 人件費に関しては、所長が空席の期間(2か月間)があったことなどで減少したが、トータルメディア本社の社員が手厚く対応したため、後方支援スタッフ費用が増大し、結果的に予算と同等のレベルに落ち着いた。	A
	7 (販売売上の状況) A: 350万円以上 B: 250万円以上350万円未満 C: 150万円以上250万円未満 D: 150万円未満	・事業収入合計は予算の7割ほどの2,133,573円であった。新型コロナウイルス感染症の影響により講座や講演会の開催が制限されたため、講座・講演会参加費等は予算の77%、雑収入は同58%にとどまった。連携団体などのチラシ制作の請負いを増やすなど、引き続き、啓発業務に支障が生じない範囲で売上増強に向けた手段を模索していきたい。	C
運営事業等に関する項目	8 (利用者数) ・利用者数増加に向けた工夫がされている。 【参考値】 A: 3万5千人以上 B: 2万5千人以上3万5千人未満 C: 1万5千人以上2万5千人未満 D: 1万5千人未満	・年間の総利用者数は、17,082人であった。なお、令和4年度から「出前展示」による観覧者数(推計値)の計上を中止したが、出前展示に足を向けた方々も潜在的な利用者であり、啓発につなげることができたと考えている。 また、団体見学の調整、講座参加者への電話でのフォローアップ、各種メディアを活用した広報活動、貸室利用者とのコミュニケーションなどの工夫で、利用者増加や再利用へつなげている。	C
	9 (利用者満足度) ・利用者のアンケート等により、利用者の満足度を把握し、業務が実施されている。 【参考値】 A: 「とてもよい」「よい」の割合が80%以上 B: 「とてもよい」「よい」の割合が60%以上80%未満 C: 「とてもよい」「よい」の割合が40%以上60%未満 D: 「とてもよい」「よい」の割合が40%未満	・講座、見学、催事後のアンケート(2,372名回答)において、スタッフの対応については「とてもよい」「よい」を合わせて98%、内容についても「とてもよい」「よい」を合わせて97%の満足度となり、概ね高い評価をいただいている。	A
	10 (施設見学サポート業務) ・学校等団体見学や、一般見学者に対し、それぞれ見学者に応じた案内業務が実施されている。 ・本施設の設置目的達成のための「ごみ減量及びリサイクルに関する情報発信」に取り組まれている。	・地域内の小学校団体の利用を例年通り行い、25校1,627名を受け入れた。各校の職員と個別に打ち合わせを行い、着発の時間管理、廃材ワークショップ、里山体験学習、地球温暖化学習など学校のご要望に合わせた環境学習を提案している。 ・幼稚園、保育所などの団体見学時には、低年齢向けの動画の視聴などもご案内し、年齢に沿ったガイドを心がけ実施している。 ・第3回ひょうご高校生 環境・未来リーダー育成プロジェクトの研修を受け入れ、未来の主役である高校生に向けてガイドを行った。 ・NPO兵庫県樹木医会の研修会を受け入れ、「国崎エドヒガン群落」保全活動状況について解説を行った。 ・川西市役所、キセラ川西プラザ、豊能町立図書館、能勢町浄るりシアター、イオンモール猪名川でパネル展示を行いSDDsやごみ減量、リサイクルの情報発信を行った。	A

所管課評価		評価協議会評価	
指定管理者のヒアリングにおいて、 確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等	
経営状況に関する項目			
<p>指定管理者の経営状況に関する評価については、協議会内で行うには専門的な分野であることから、専門部会を設けて評価を行った。5月31日に評価協議会委員(税理士)・所管課・指定管理者の三者にて会計処理評価部会を実施した。概要は次のとおり。</p> <p>指定管理者から、各収支に係る会計処理方法と関係書類の保管状況及び令和4年度収支金額について全体説明と個別の各項目につき説明を受け質疑応答した。</p> <p>(1)収入金額と支出金額全体のバランスはとれていて問題はない。収入面は講座講演会参加費等と雑収入の両方とも計画を大幅に下回った。支出面は人件費の後方支援費、事務機器リース費、直接事業費等で計画を上回った項目もあるが、おおむね計画の範囲内であった。計画と大幅乖離した項目について、計画の詰めができていない、人事の事情、リース物件を購入に切り替えた、新しくパネルを購入した等々の説明を受けた。</p> <p>(2)実査は、①小口現金支払い②請求書による支払い③注文書発行(外注)による支払い④施設利用料収入⑤イベント等の収入について定められたルールに沿って処理されているかを確認した。特に見積、発注、納品、請求の各書類の整合性、そのチェックの実施状況及び金銭の出入金時のチェック(検印等)と入帳及び残高確認の有無を実査した結果、全てルールに沿って適切に処理されていた。</p> <p>(3)帳票類について、予算執行申請書、精算伝票、現金出納帳、見積書、注文請書、納品伝票、施設使用許可書、使用料収納報告書、イベント実施報告書等の保管状況を確認した。上記の各書類は適切に管理、保管されていた。</p> <p>(4)指摘事項として、収入、支出の各項目毎の計画数字は、過去の実績、予測できる事項等を勘案して実績と大きく乖離しないよう配慮されたい。</p> <p>【意見】 ○販売上の状況では「C」評価となるが、コロナ禍での影響を勘案すると「B」評価が適当である。</p>			
<p>・見学や出前講座の年間総利用者数は対前年比110.69%(前年度15,431人)で増加している。</p> <p>・川西市役所、能勢町浄るリシアター(6月)や豊能町立図書館(11月～12月)等、連携で行われた出前展示の機会を利用し、施設利用に繋がるように工夫をしている。</p>		B	運営事業等に関する項目
<p>・本年度はアンケートの回収方法を検討、工夫され、前年度比131.1%の高い回収率であった。</p> <p>・能勢町浄るリシアター(6月)や豊能町立図書館(11月～12月)で行われた出前展示でのアンケートでは、「展示内容がわかりやすかった」と来場者の感想があり、利用者の目線に立って会場並びに展示内容を工夫している。</p>		A	<p>【確認事項】</p> <p>●令和4年度の利用者数が利用計画の目標16,000人を超えており、十分目標は達成できている。</p> <p>●講座の講師には、施設の役割等を理解のうえ、「ゆめほたる」スタッフの面談を経て、講座内容がエコや環境に係るものであるかを判断し、講座講師の確保に努めている。</p> <p>●広報「森の泉」6月1日号(98号)からA4判になり、発行回数が年6回から4回となるが、お知らせや講座等のイベント募集について、情報の鮮度や発信のタイミングを充分配慮し、計画性をもって対応している。 さらに、イベントについてはチラシの配布やホームページ等の活用など、手立てを講じながら情報発信に努めている。</p> <p>●広報「森の泉」6月1日号(98号)は読者に好評で、講座の新規申し込みが増えたうえ、クロスワードパズルの回答が通常の約3倍に増え、読者(1市3町の住民)への到達力(伝わる力)が高まった。</p> <p>●【重点的に行った事業】コロナ禍のため展示に専念し、新しいポスターを作製して「出前展示」を重点的に実施している。</p>
<p>・一般見学者の来場は年々減少傾向にあるが、来場の際の施設ガイドも見学内容の希望をお伺いし、臨機応変に利用者に親切、丁寧に見学対応している。</p> <p>・里山への利用見学は年に数回あり、地図をもとに入山する時と帰られる時には声をかけていただくよう案内し、事故防止に取り組まれている。</p> <p>・小学校団体の受入れでは、学校の希望に応じた学習メニューで個別対応し、適切に案内が行われている。</p> <p>・低年齢向けでは動画(ガラス3R促進協議会作成)を活用し、学習コンテンツにも、利用者目線に立って創意工夫されている。</p> <p>・外部関係団体に研修場所として活用いただくことで、目的達成にもつながっていると考える。</p>		B	<p>●【効果があった事業】教育委員会との連携、学校との連携を強化し、能勢ささゆり学園と連携した「教育の連携」は効果があったことを確認した。</p> <p>〔(1)能勢ささゆり学園4年生が「ゆめほたる」でごみの分別体験を行い環境について学習し踊りを披露した。 (2)学校にて木の実で作ったダチョウや、空き缶で作ったヤモリ等を「ゆめほたる」で約1か月展示した。 (3)「トライやる・ウィーク」で体験中の中学生が小学生の展示作品を写真撮影してポスターを作製し「ゆめほたる」で展示した。 *(1)～(3)総括 中学生が体験したことが中学2年生の職場体験につながり、非常に良い取り組みであった。〕</p> <p>【意見】 ○周囲が里山という処理施設の特徴を活かし、さらに自然を活かした環境啓発に取り組んでもらいたい。</p>

評価:

B

項目	評価項目	指定管理者自己評価	
		評価年度においての実績や 右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	11 (環境情報センター管理業務) ・環境に関する書籍や各種資料、映像、ネットコンテンツ等を適宜収集し環境情報の提供が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・環境に関する各種書籍や資料を継続して収集している。令和4(2022)年度には新たに77冊を購入し、蔵書冊数は計5,342冊となった。利用人数は1,022人だった。 ・環境読書感想文コンクールを平成30(2018)年度より継続実施し、次世代に環境問題について考える機会を提供している。令和4年度は全国各地から128点の応募があった。 ・住友ゴム工業(株)の植樹維持活動(センター内植樹地)について継続して協働している。 	A
	12 (講演会、講習会、研究会等開催業務) ・ごみ問題や環境問題のほか、地域の自然や人々の暮らしに役に立つ講演会や講習会が実施されている。 ・環境分野に関連する専門講師を招き、環境啓発事業が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・5月に開催したバードウォッチング、8月に実施した天体観望会で地域の自然に触れる機会を提供し、9月に開催した映画「杜人」自主上映会では自然や人々の暮らしについて考えていただいた。こうした講演会や講習会を定期的に開催している。 ・11月に開催したイベント「里山のこれまでとこれから」では、大阪公立大大学院農学研究科の上田萌子准教授(緑地環境科学)を講師に招き、里山の魅力について語っていただいた。また、同じイベントでゆめほたる里山クラブメンバーや地域のフリーライターなどを招いて活動発表や座談会を行い、環境についての啓発につなげた。 	A
	13 (リサイクル工房活用業務) ・リユース・リサイクルについて体験型工房を活用した講習会が実施されている。 ・日常生活に役立つノウハウで習得できる講習会が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・各工房を活用しリサイクルやリユースの体験講座を実施している。 ・新たに地域講師による「断捨離講座」をスタートさせた。フリマと同日開催にし、できるだけ多くの方に参加していただけるようにした。 ・着物リメイク教室は日常生活で使えるものに主眼を置いたアップサイクル(捨てられるはずの製品に新たな付加価値を与えて再生すること)の講座。この講習会は「筆筒の肥やし」となっていた着物を、日常生活に役立てることができる」と好評である。 ・継続して人気の木工教室では制作物も魅力的な物にし、問い合わせも多い。キャンセル待ちが多ければ追加日程を増やし、できるだけ多くの希望者に参加していただけるように調整している。使用する材料も施設の里山林の危険木や間伐材を使用することもあり、その際は里山の説明も講座内で行うなど、講座の魅力向上へ向けて日々工夫している。 	A
	14 (屋外及び屋内を活用したイベントの開催) ・ファミリー層等多世代に向けた環境啓発につながるイベントが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・屋外フリーマーケットを実施し、幅広い世代にリユースの輪を広げる活動を行った。9月のフリーマーケットは出店44店、来場者643人、11月のフリーマーケットは出店49店、来場者755人、3月のフリーマーケットは出店50店来場者788人だった。 ・大規模催事の際は、山下駅からの無料シャトルバスを運行し、運転のできない世代の来場の利便性を高めている。 ・3月のフリーマーケットでは国崎クリーンセンター全体で協力してリユース家具とリユースベビー用品を多数取り揃え、集客とリユース啓発に力を注いだ。さらに光熱費の削減に向けた講演会や「うちエコ診断」などの節約に関連した内容も盛り込み、多世代に向けた環境啓発を行い、各世代に好評であった。 	A
	15 (屋外観察会開催業務) ・里山を中心とした四季折々の自然を体感できるイベントが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・4月のエドヒガン観察会と5月の野鳥観察会はゆめほたる里山クラブメンバーの協力を得て実施。また、地元企業の「ネイチャーランドNOSE」には5月の野鳥観察会と8月の星空観望会で連携した。さらに、冬の天体観望会では猪名川天文台運営委員と連携した。こうしたイベントは、敷地内里山林および、多目的広場を会場に開催したもので、参加者に屋外の自然を体全体で感じていただいた。これら4件のイベントで計127人の参加があった。 	A
	16 (ボランティア運営業務) ・ボランティアの育成を行い、各種グループとの連携を図りながら事業が運営されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・第1期～3期の里山保全技術者養成講座修了生がゆめほたる里山クラブ員として敷地内の里山保全活動を行っている。ハード面の森林の保全整備と、ソフト面の環境学習の場の提供をあわせて行っている。令和4年度は、里山資源の利活用として、災害被害木の活用について検討を始めた。 ・環境活動に意欲的な方々に対して、集いの場・交流の場を提供している。地域福祉施設や自治会などとの連携も増えている。 	A

所管課評価		評価協議会評価
指定管理者のヒアリングにおいて、 確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナの活動制限緩和後は、貸出利用者も回復の兆し(R3 184人)がみられる。 ・新刊の選定では、環境で話題になっているもの、環境読書感想文コンクールに関係した課題図書を取り入れ、蔵書数を計画的に増やす等、図書購入にも工夫されている。 ・環境読書感想文コンクールについては、学校図書館教育として取り組んでいただいたところ、応募増となった。今後もコンクール応募増につながるアイデアと工夫を期待する。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・講演会、バードウォッチングや天体観望会等、新たなメニューも取り入れる工夫を入れながら、計画的に実施している。 ・講演会では、参加者が自身の問題として考え、より里山への理解等につながった取り組みである。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・工房の利用者は、ワークショップを通じてリサイクルへの興味、意識の醸成につながっている。 ・エコクッキングでは暮らしに役立つノウハウを参加者で共有し、講習会を通して参加者のエコライフに役立てられている。 ・開催を土日、夏休みであれば午前子ども向けイベント、午後大人向けイベントを開催する等、若い世代や家族ぐるみで参加しやすいよう工夫している。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・屋外ではフリマを年3回(R3はコロナのため2回)開催され、多世代の方に参加いただけるよう、工夫している。 ・屋内では、リユース家具抽選会を開催し、申込114組中80組成約があった。また、ベビー用品リユースでは20名の持ち帰りがあり、リユースへの取り組みを通じ参加者の環境啓発につながっている。 ・見学通路等を活用し、「かえっこゲーム」を実施するなど、スタンプラリーを通じて、子ども向けにも楽しめるイベント内容をよく考えて実施している。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・年間を通して、施設屋外の様々な拠点を活用し、四季折々の自然を体感できるイベントを企画、開催している。 ・個々のイベントでは、現地で里山ボランティアクラブの協力を得て自然体験会を取り入れ、参加者の安全確保に留意しながら行われている。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアはR5.3末現在109名(R3 110名)の登録があり、横ばいである。 ・ボランティアの発案で開設された講座(断捨離講座)もあり、事業運営にも貢献している。 	B	

項目	評価項目	指定管理者自己評価	
		評価年度においての実績や 右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	17 (広報活動) ・広報誌「森の泉」やホームページ等各種媒体を使用して、施設の宣伝や環境啓発が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・年間6回の編集作業を行う「森の泉」に関して、読者の視点に立ち、読みやすい・見やすい・わかりやすい紙面構成を心掛け、好評を得ている。令和4年度は年間608通のアンケートはがきが届いている。令和5年度からのリニューアルに向けた準備も同時に進めた。 ・国崎クリーンセンターおよび、啓発施設「ゆめほたる」のホームページのリニューアルを行った。全体的に見やすく、親しみやすいデザインに一新した。管理者側の視点では、操作をしやすい「CMS」を幅広く取り入れた。 ・Instagramでの情報発信や出前展示、地域催事への出前などによりゆめほたるのアピールと利用促進に貢献した。Instagramは9月から開始し、初年度の投稿は81件だった。 	A
	18 (貸館の利用状況) ・多目的広場や管理棟内等貸室の活用方法及び貸出方法について、稼働率を高めるための取組みが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・多目的広場については日ごろから天然芝のメンテナンスを丁寧に行い、利用者が満足して使っていただける環境づくりに努めている。多目的広場の利用件数は前年度比148.6%、利用人数は前年度比121.9%と増加した。スポーツ利用の場合には天候、芝生状況、利用者からの希望、駐車可能台数など、様々な調整をしながら貸出業務を行い、良好な業務遂行に努めた。 ・来館者の見学ガイドを行う際には、各工房や視聴覚室の説明も行い、お客さまの事情に応じて貸し出しをしていることもご案内している。ご案内により、視聴覚室の新たな申し込みにつながるなど稼働率を高める結果となっている。 	A
	19 (出前講座・出前展示の実施) ・地域の各種団体や学校等でニーズに応じた出前講座が実施されている。 ・地域の各種施設で展示啓発が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体のご希望に沿った出前授業や展示等を実施している。豊能町の社会福祉法人 豊悠福祉会「祥雲館」、川西市立緑台小学校での出前授業を実施。能勢町教育委員会との連携で能勢ささゆり学園4年生にごみ分別体験を実施した。 ・啓発のための出前展示は、川西市役所、キセラ川西プラザ、能勢町の浄るりシアター、豊能町立図書館などで実施した。川西市役所の展示期間(6日間)に役所を訪問した人は1,960人、キセラ川西プラザ(11日間)で440人、浄るりシアター(11日間)で2,277人で、こうした多くの方々の目に触れることで啓発につながった。 	A
	20 (地域活性化、地域貢献) ・地域活性化や地域貢献に寄与するイベントが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・フードドライブ事業を継続しており、令和4年度は食糧品12件155kgを受け入れ、地域のこども食堂へ寄付した。 ・9月に地域の福祉施設のごみ拾いイベントに参加、2月には一庫ダム出合なぎさ親水護岸での猪名川クリーン作戦に参加し、地域の美化活動に貢献した。 ・県立川西明峰高校の「明峰の学び」の講師として2018年から継続参加している。明峰の学びは地域や大学の様々な分野から講師を招いて授業をする総合的な探求の時間の活動の一環。自治会やコミュニティーの祭りへの参加や地域施設での環境啓発パネルの展示、小学校や福祉施設への出前授業などによる環境啓発を展開した。 	A
	21 (里山林等維持管理) ・敷地内の里山を含む緑地や植栽の維持管理が適切に行われている。 ・里山を活用した事業が実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・国崎クリーンセンター里山保全委員会を開催し、学識経験者や森林整備専門家などから国崎の里山林保全についてのアドバイスを得ながら、ゆめほたる里山クラブも交えて、維持管理を行っている。また、里山保全委員会について、開催手法を見直し、審議内容の充実にも努めた。委員をお願いした方々から「里山について突っこんだ議論・提言ができた」との言葉をいただいた。 ・天然記念物のお花見、野鳥観察会、里山学習、森あそびなど季節ごとに里山を活用したイベントを実施している。実施に当たっては、地域団体と連携し、魅力的な内容に向けて調整し、参加者の満足度も高いものとなっている。 	A
22 (市町・各種団体との連携、協働、支援) ・市町・各種団体と連携・協働しながら環境施策等への支援が実施されている。 ・次世代育成の観点から、施設見学や環境学習におけるさらなる啓発効果を高めるための取組みが実施されている。	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会と連携して、施設見学時に分別体験や温暖化についての学習を加えたり、出前授業を行うなど、啓発効果を高めるための取組みを行った。1月には川西市の「環境基本計画シンポジウム」でポスターセッションに参加した。 ・学校やこども園との協議を行い、令和5年度以降の連携に向けての準備を進めた。 	A	

所管課評価		評価協議会評価
指定管理者のヒアリングにおいて、 確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等
<ul style="list-style-type: none"> ・広報「森の泉」への見直しのための準備に協力し、令和5年夏号の発行につながっている。 ・施設組合及び「ゆめほたる」のホームページのリニューアルが年度内に適正に行われた。 ・施設のアピール度をさらに高めるため、令和4年9月からInstagramを導入し、ツールとして活用されており、今後も登録が増えるよう期待したい。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍前(R元)と比較すると、約8割の利用者(R元15,192名)が行動制限が緩和されたことで戻ってきている。 ・平日の利用率を上げるため、柔軟なアイデアを期待する。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域団体の希望に沿った出前授業や講座が行われている。社会福祉法人への出前講座では、施設の希望によりオンライン方式と現場方式を併用して開催することで、実施方法を工夫し楽しく参加できる講座設定づくりに力を注がれている。 ・出前展示では、脱炭素やSDGsに関して構成市町部署との連携展示を行い、身近な施設で環境について学べる機会や場を提供している。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・地域貢献では、フードドライブ事業や地域の美化清掃活動にも新たに参加し、環境美化へ積極的な姿勢が見受けられる。 ・次世代を担う高校生を対象に、国崎クリーンセンターの紹介、ごみ分別や里山をテーマにした環境啓発を継続して展開され、積極的にアウトリーチする形で啓発に取り組まれている。 ・地域の催しにも参加し、10月には川西市自治会イベントへの出店や、11月には能勢町で福祉委員会主催の出前ワークショップ形式で参加し、地域の方々が環境への意識、興味をもつきっかけづくりに努力されている。 	A	
<ul style="list-style-type: none"> ・里山の維持管理では、作業に高度な知識や技術が必要なものを除き、防鹿柵の点検や危険木の管理点検を里山ボランティアクラブの協力で適切に実施している。 ・里山学習の拠点となるよう地域団体と連携し、里山の魅力が高まるイベントを実施している。 ・若い世代は本業があるため、ボランティアに参加しにくい実情がある状況が伺える。 	B	
<ul style="list-style-type: none"> ・構成市町で開催されるイベントでは、川西市環境基本計画シンポジウムに「里山保全」をテーマに毎年参加されており、参加者の環境施策への理解を深める良い取り組みであると考えます。 ・「教育委員会との連携」では、能勢ささゆり学園での作品展示や、「トライやる・ウィーク」で中学生がポスターの作製体験を行うなど、それぞれのプログラムで啓発効果を高めるため相互取り組みは好事例と考えます。 ・一庫ダム、一庫公園との包括連携を目指し、一庫ダム見学等地域連携に向け、今後も効果的な取り組みを期待するところである。 	B	

項目	評価項目	指定管理者自己評価	
		評価年度においての実績や右評価とした評価事項等	評価
運営事業等に関する項目	23 (新規事業等) ・事業を常に見直し、業務改善に取組み、新たな事業を展開している。 ・特に力を入れて取り組んだ事業。	<p>・人気コンテンツであるフリーマーケット開催に当たっては、規約の見直し、当日の誘導など、回数を経るごとに随時見直しを行い安全な運営に努めている。秋に当施設の里山リラクゼーションメニューとして、森の寝ころびヨガを実施。里山を散策する“動”の要素と、寝ころんで空を眺めたり林内の植物からのクロモジ茶を飲みながらの振り返りをする“静”の要素を組み込んだ“森林セラピーワークショッブ”となり、参加者の満足度が高かった。</p> <p>・地域の小学4年生の団体見学において、SDGsを身近に感じることができるよう食品ロスやごみ分別などをわかりやすく紙芝居で説明している。 また、中学2年生の職場体験「トライやる・ウィーク」を受け入れた。6月の環境月間に合わせて、組合、川西市と連携し環境啓発パネルを新規に作成して市役所やキセラ川西プラザで展示し、さらに「マークのはてな」パネルも新規で制作し施設内で展示した。</p>	A

総合評価	<p>「管理体制」、「経営状況」、「運営事業」の3項目のすべてにおいて「B」評価であることから、「総合評価」は「B」評価とする。</p> <p>《評価のコメント》</p> <p>(1) 管理体制等では、コロナ禍においても全体として非常に運営努力し、利用の回復を図るため、少数職員で効率よく取り組んでいると認められた。</p> <p>(2) 経営状況では、収入、支出の各項目毎の計画数字は、計画と乖離している部分は見受けられるが、収支全体のバランスはとれており、適切に処理されていると判断した。</p> <p>(3) 運営事業等では、個別の事業において、状況に迅速に対応する姿勢が備わっていることが確認できた。</p> <p>評価: (4) 広報「森の泉」では、情報発信について、編集内容等に検討を加え工夫を凝らしたことが成果につながっている。</p> <p>(5) 地域との連携では、地域の課題(鹿対策等)に向き合いながら、「里山」という地域が持つ大切な自然を守ることと地域の理解によって存する「一般廃棄物処理施設」との連携のために、職員が一丸となって取り組んでいる。</p> <p>(6) その他「教育委員会との連携」については、行動力が発揮されていると認められた。</p>	B
------	--	---

附帯意見	<ul style="list-style-type: none"> ◆地域融和や循環型社会形成を目指し、里山という自然と調和した施設で環境啓発ができる特徴を活かした事業展開を今後も期待したい。 ◆出前講座の重点的取り組みを図ることで、次世代を担う子どもたちの環境に対する意識を醸成し、今後もごみの減量につながっていくことを期待したい。 ◆引き続き地元地域のコミュニティ行事等の地域イベントに参加し、一般参加者と出前講座を通じて交流し、「ゆめほたる」環境啓発のPR促進に取り組まれない。 ◆新たに導入されたInstagramの利用促進に向け、施設を拠点に年齢層が高い世代へのIT教育の支援を行う講座の開設など、施設全体の利用にもつながる工夫に努めてもらいたい。 ◆これまで積み上げてきた事業の動向を把握するためには、継続事業・新規事業以外に、中止及び変更した事業等の報告についても工夫をお願いしたい。 ◆経営面において、収入、支出の各項目毎の計画数字は、過去の実績、予測できる事項等を勘案し、実績と大きく乖離しないよう配慮をお願いしたい。
------	---

附帯意見の対応	<ul style="list-style-type: none"> ・33.8haの敷地を有する国崎クリーンセンターには広大な里山林があり、これまでこの里山林を利用してエドヒガンの観察会や野鳥観察会、森遊びなどのイベントを開催してきました。また、地域の小動物や植物の写真展などを通じて、地域の里山や生物多様性について思いを馳せていただいています。令和5年度は半年をかけて「ゆめほたる里山学校」を開催する運びです。こうした里山を活かした事業をさらに充実させ、地域融和や循環型社会形成に貢献できるよう努めます。 ・これまで、県立川西明峰高校や地域内の小学校への出前授業を通して、次世代への環境啓発に努めてきました。今年度以降も、組合構成市町の各環境部局や教育委員会等と調整しながら出前講座の充実を進めてまいります。 ・また、来年度、タレントとコラボして小学校で一緒にSDGsの授業を行う企画を検討しています。「次世代を担う子どもたちに新しい学びを提供している」と期待を持っていただき、メディアへの露出機会も増やしてごみ減量への啓発を進めていきたいと思っております。 ・組合構成市町内の地域イベント等の参加や出前講座を通して、「ゆめほたる」に來られたことのない一般参加者に向けて施設PRと環境啓発に努めます。 ・令和4年度と5年度に動画講座を開催し、受講の方々にパソコンやスマホと動画ソフトを活用して里山保全イベントの動画撮影や知明湖キャンプ場のPR動画撮影にご協力いただいています。この講座には比較的高い年齢層の方も参加しておられます。今後も同様の取り組みを模索し、InstagramとHPを相互に活用しながら施設全体の利用増につなげてまいります。 ・動画把握のために、中止及び変更した事業等に関して令和5年度の事業報告書からとりまとめるようにいたします。 ・出来るだけ乖離しないような計画を立てるように努めます。ただ、予期できない経済状況の変化や、地域情勢の移り変わりなどもあり、結果として差異が生じた場合は、評価協議会の中でその理由についての説明を添えます。
---------	---

所管課評価		評価協議会評価	
指定管理者のヒアリングにおいて、 確認した事項 等	評価	協議会内での質疑回答、備考等	
<ul style="list-style-type: none"> ・新たに里山リラクゼーションを講座としてスタートさせ、里山の魅力発信に利用されている。 ・その他、参加者増のため取り組みとして「断捨離講座」や「うちエコ診断」、「豊能町祥雲館(出前講座)」、「能勢町教委との連携(施設見学+花笠音頭+間伐材ロボット作り+分別体験)」が新規に実施され、様々な趣向を凝らした講座、イベントが行われている。 ・中学生職場体験「トライやる・ウィーク」を活用し、中学生が現場で理解を深めていける取り組みをしている。 ・川西市の環境部局と連携して、川西市主催の環境月間のパネルを新規作成し環境啓発に役立っている。 	A		

評価:

B